

## 7 第5学年 異文化理解 A Stamp as a small cultural ambassador which connects you and me.

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 清水 典子

### 1 はじめに

昨年度、小学校5年生の担任として新学習指導要領の移行期間に「英語活動」の授業を行った。1年間、児童が生き生きと英語学習に取り組むのを見ることは大変な喜びであった。それと同時にALTの先生ともっとうまくコミュニケーションをとることや英語圏の文化の違いを知ることの必要性を強く感じていた。今回、「体験型海外教育実地研究」のことを知った時、アメリカのいくつかの学校を自分の目で見るができることや自分がアメリカの児童に授業をすることができることに強い魅力を感じた。短い時間ではあるが、自分で異文化を体験しいろいろなものを直接感じてくることで、自分の経験を増やし、それらを児童に伝えることができるようになりたいと考え、本研修に参加した。

### 2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	泊
4/7	水	17:00-18:00 C527	体験型海外実地研究 説明会 履修届	
4/22	木	16:20-17:30 C527	渡航までの日程確認 パスポート確認 ESTA・保険の確認 5/13, 23の紹介と確認 授業研究テーマの設定方法 教室英語図書紹介	
5/13	木	12:50-14:20 L204	教育講演会 参加 演題「Culture and Pedagogy」	
5/27	木	16:20-17:30 C527	ホテルの部屋割り 授業研究テーマ案の交流	
6/17	木	16:20-17:30 C527	学習指導案の検討	
7/15	木	16:20-17:30 C527	学習指導案の検討 (アクションリサーチ実習中のため参加せず、指導案提出のみ。)	
7/18	日	9:30-11:30 C527	2010 体験型海外教育実地研究授業研究ワークショップ ECUの先生と指導案の検討	
8/27	金	9:30-11:00 C527	学習指導案の検討および 渡航のための諸手続き(保険)	
9/2	木	14:40-16:00 C527	学習指導案の検討(提出) 渡航準備 報告書作成および発表会の打ち合わせ	
9/11	土	広島→成田 0745-0925 (NH-3128) 成田→ワシントン ダラス 1105-1040 (NH-2) ワシントン ダラス→ローリー 1235-1340 (NH-7144) 空港 →City Hotel & Bistro (ECUの先生方による送迎)		アメリカ ノースカロライナ州 City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)271-2616 Greenville
9/12	日	(ECUの先生方による送迎)	East Carolina University 各学校の先生方と事前打ち合わせ	Greenville 同上
9/13	月	City Hotel →ウオール コート小学校へ Wahl-Coates E. S. (K-5) (ECUの先生方による送迎)	学校訪問 Wahl- Coates E. S. (K-5) 学校見学 授業実践(山中1回目・清水1回目・藤本1回目)	Greenville 同上
9/14	火	City Hotel →ウオール コート小学校へ Wahl-Coates E. S. (K-5)	学校訪問 Wahl- Coates E. S. (K-5) 学校見学	Greenville 同上

		ECU 大学訪問 (ECU の先生方による 送迎)	授業実践 (山中 2 回目・清水 2 回目・梅田 1 回目) 授業見学 (朝倉先生) イーストカリフォルニア大学訪問	
9/15	水	City Hotel →セントピ ーターズカトリック スクールへ (タクシー) St. Peter's Catholic School → ローリー (タクシー)	学校訪問 St. Peter's Catholic School.	ノースカロライナ州 Sheraton Raleigh 421 S. Salisbury Street Raleigh NC 27601 TEL (919) 834-9900 Raleigh
9/16	木	徒歩で、エクスプロリ スミドルスクールへ	学校訪問 * Exploris M.S. (6-8) 午後歴史民俗博物館, 自然史博物館, 旧議 事堂見学	Raleigh (同上)
9/17	金	ローリー—ワシントン ダラス空港 1025-1130 (NH-7145) (空港からホテルまで タクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験	Washington Plaza 10 Thomas Circle, N.W. Washington, DC 20005 202. 842. 1300 / 800. 424. 1140 Fax: 202. 371. 9602 Washington DC
9/18	土	徒歩, 地下鉄	アメリカ文化体験 スミソニアン博物館	Washington DC (同上)
9/19 9/20	日 月	ワシントンダラス—成田 1220-1525 (NH-1) 成田—広島 1750-1925 (NH-3129)		

これ以外に 9/3(金)に呉市立波多見小学校 5 年 1 組にて事前授業を行い, 10/14(木)に事後学習を行った。今  
後も交流次第で, 波多見小学校にて授業を行う予定である。

### 3 実地研究授業

#### 3.1 単元名 第 5 学年 異文化交流「世界をつなぐ小さな文化大使について考えよう」

#### 3.2 事前準備

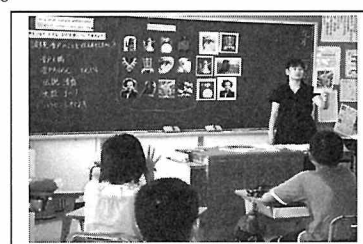
##### ① 単元設定の理由

本授業のねらいは, 日本の普通切手とアメリカの普通切手を比較することを通して, それ  
ぞれの国の切手の特徴や切手のデザインの特徴に気づくことである。また, 自分の住む地域  
の特徴を生かした切手のデザインを考えることを通して, 自分の地域の文化や特徴に気づき,  
それをほかの人に紹介することができることもねらいとした。

現職の小学校教員であるため, それを生かして日本の小学校 5 年生にも同じような内容の  
授業を行った。日米の小学生の考え方や感じ方の違いをお互いが気付き, 自分とは異なる国  
の文化や考え方に接することを通してお互いの国のことをもっと知りたいという気持ちを持  
ち, 異文化を理解しようとする思いが芽生えることを期待した。

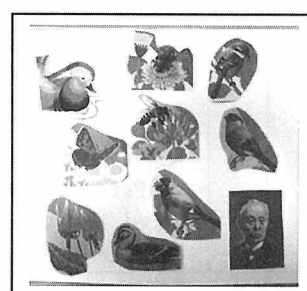
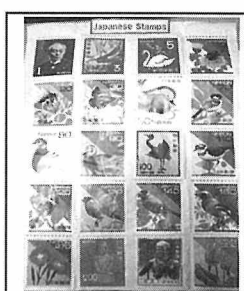
##### ② 準備内容

9 月 3 日 (金) に呉市立波多見小学校 5 年 1 組 23 名に  
授業を行い, そこで波多見小学校や音戸(学校のある地域)  
を紹介するものは何か考え, 切手のデザインを描いてもら  
った。また, ウオールコート小学校の 5 年生に渡すための  
自己紹介の絵を描いてもらい, それらをアメリカに持参した。



【写真 1 波多見小学校での授業】

そのほかに、日本の普通切手とアメリカの普通切手を拡大コピーしたもの、切手の絵柄だけを取り出したもの、切手のデザインを描いてもらうためのワークシートを準備した。



【資料1 アメリカの切手の拡大コピー】

【資料2 日本の切手の拡大コピー】

【資料3 切手の図柄のカード】

### 3.3 学習指導案

Lesson Title : A stamp as a small cultural ambassador which connects you and me.

Grade Level : 5<sup>th</sup> (Wahl-Coates)

Subject : Classroom Activity

Objectives :

- 1 Notice the different or the similar features of the design of the stamps of the United States and Japan through the comparison of the definitive stamps of the both countries.
- 2 Think and express the design of stamps which demonstrate the features of their hometown, Greenville to introduce their hometown to Japanese children.

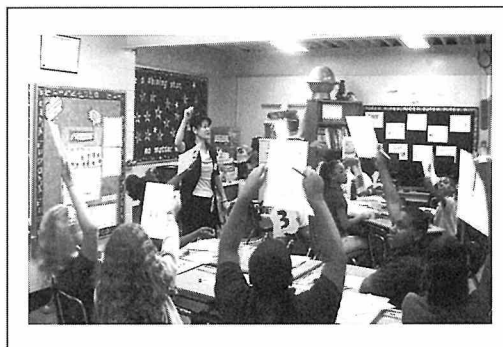
Teaching process

Students' activity	Teacher's support	Materials
1 Look at some pictures of "Hatami Elementary school", "Ondo", and "Kure".	<ul style="list-style-type: none"> <li>• What can you see in this picture?</li> <li>• What do you think this is?</li> <li>• It is an oyster raft.</li> <li>• This is a bridge called "Ondo-Ohashi". It is a bridge that the car passes. It looks like a roller coaster.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• The photographs of "Hatami elementary school, Ondo and Kure"</li> </ul>
2 Look at some Japanese stamps. Find out the features of Japanese stamps. Think about what kind of wish is put to a stamp.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• The photograph that omits the figure and the character of the stamp of Japan and expanded greatly is shown.</li> <li>• What do you think this is?</li> <li>• What is drawn on the Japanese stamps? Think about the reason by comparing those.</li> <li>• What is the difference between Japanese stamps and those of the United States'?</li> <li>• Why did the people who had made the stamp of Japan choose with "A Nature of Japan" as the theme?</li> <li>• Such a message is put in the stamp.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Macro photography of Japanese stamps.</li> <li>Macro photography of the United States stamps.</li> </ul>

3 Create a stamp which shows and expresses their hometown, Greenville.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• The picture of the stamps made by Hatami Elementary School students is shown to students at the United States. Because to remind me of study activity 1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Children's picture</li> <li>•Work-sheet</li> <li>•Pen and colored pencil</li> </ul>
4 Show their original stamps to the classmates.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• The teacher asks the students the reason why they decided to draw the picture. Because it is possible to think about something with suitable design for stamp.</li> </ul>	

### 3.4 授業の実際【1回目, 5年生の授業について】

- (1) 波多見小学校や音戸町の特徴や波多見小学校の児童の様子について写真を使って紹介した。
- (2) 日本の普通切手に描かれている絵の一部分を見せ、「これは、みんなと波多見小学校の児童をつないでくれるある大事なものの一つです。何だと思いますか。」という発問をした。しかし、児童には切手というイメージがなかなかわかなかったようで、最後はこちらが答えを示す形になった。
- (3) 日本の切手をカラーコピーしたものを示すと、児童から「おおっ」という声が上がった。アメリカの切手と並べて、日本の切手とアメリカの切手の違いを考えさせた。児童からは、「鳥がたくさんいる。」などの意見が上がった。その後、日本の切手のテーマは何か質問すると、「生き物」「鳥」などの答えが出た。教師が「美しい水や動植物などの自然」なのだと説明すると、児童はうなずいていた。
- (4) オリジナル切手を作ろうと投げかけ、まず波多見小学校の児童が描いた切手と、その説明になるような写真を提示した。その後児童に、ノースカロライナやアメリカの特徴を生かした切手の図案を考えさせた。最後は時間不足で、描けた図案を全員に持ち上げてもらい簡単に説明をさせて授業を終えた。

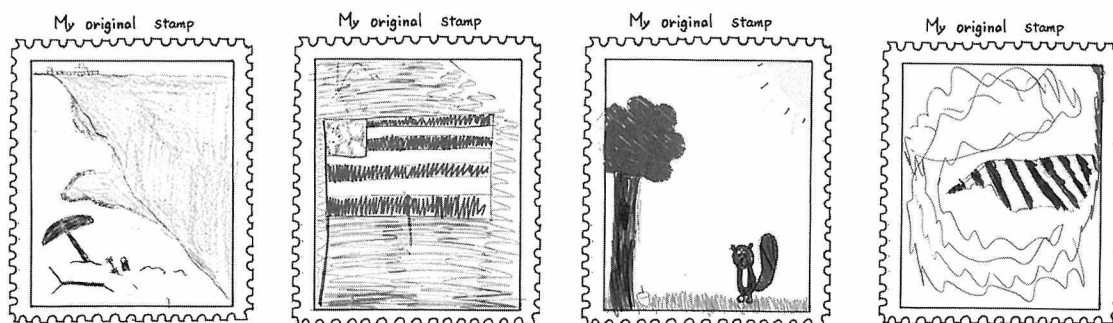


### 3.5 考察

成果としては、次のようなことがあげられる。日本の切手の美しさに気付かせたり、波多見小学校の児童の様子や児童の描いた切手の図案やメッセージを見ることで、日本に興味を持たせたりすることができたこと、切手の図案を描くことを通して、自分の地域や国を代表するのは何かを考えさせることができたことである。自分の生活している地域の公園、ショッピングセンター、大学を図案にしたり、ノースカロライナの山や、鉄道、海岸を図案にしたり、アメリカの旗を図案にしたりした児童もいた。それぞれの図案を交流する時間が少なかったが、児童が自分の地域の特徴や、自慢に思うものを改めて考える機会になったのではないだろうか。

課題としては、3点あげられる。1点目は授業内容が多かったことである。教材も多く、時間不足になった。日本とアメリカの切手をたくさん提示するのではなく、それぞれ1枚ずつを比

較するなど、内容を精選する必要があった。2点目は、児童に授業の見通しを持たせる必要があったことである。学習の目的が児童にはっきり伝わらず、予定の活動を教師に言われて淡々と行うような授業になってしまった。3点目は、発問や説明が十分にできなかったことや、児童から出た意見を十分に理解し授業に生かしていくことができなかったことである。



【資料4 ウォールコート小学校の5年生が書いた切手のデザイン】

## 4 体験型教育実地研究における自己変容

### 4.1 教育観の変容

これまで私は、アメリカの学校は日本に比べて自由で児童生徒が活発に発言し、その反面学習規律があまり守られておらず、教師はそれをコントロールするのが大変なのではないかと思っていた。実際に学校訪問では、多くの児童の明るく温かいあいさつに迎えられた。授業が終わった時には、握手をしたり抱きしめてくれたりした。しかし、授業を見学して、児童は発言も多く、自主的に行動しているが、教師を信頼し、尊敬している様子が伝わってきた。アメリカの学校では「決まりを守ること」を大切にしている。教室のあちこちにルールが書かれたものが掲示してあったり、中学校でも「宿題の提出の仕方」についてのプリントが配布されていた。義務を守ることは自分の権利を守ることになる。児童もそのことをよく理解しており、廊下の歩き方、話の聞き方など、学習規律が守られているように感じた。その上で、一人一人の主張や行動が保障されている。体育の授業でも学習の目標を明らかにし、やるべきことやそのために守るべきルールを確認する時間がとても長くとられていた。授業の中で、系統的に思考方法や論述のトレーニングを行っていることや、図工の技能を構造的・系統的に指導する様子を見学し、子どもの将来を見越したいろいろな指導が長期にわたって行われていると感じた。全て納得することばかりではなかったが、「学校全体で児童を育てていく」「9年間でつける力を明確にする」という意識は強く、いまだ「学級」が閉鎖的な日本の教育にとって必要な視点であると感じた。広い校舎や豊かな緑、教室掲示の色や種類の多さ、教材・機器の多さなどにも圧倒された。校長先生と面談する機会があったが、公立小学校の教育にかかる予算は日本のそれよりも多いように思えた。

### 4.2 自分自身についての変容

今回、授業にあたって、私は言葉のあまり通じないアメリカの児童に授業をすることや、「現役教師」だからこそうまく授業しなければならないというプレッシャーのようなものを感じていた。発問や考えられる答えを何種類も考え、それを英語に直すという事前の準備を何時間も行っていた。しかし、緊張のため、英語は聞き取れず準備していたものもほとんど思うように使えず、1度目の授業が思うようにいかなかったことでとても悔しい思いをした。しかし、5

年生の授業のほかに3年生にも同じ教材で授業をさせてもらう機会に恵まれた。2回目は教材を減らし、発問を少なくしたことで児童とのコミュニケーションに余裕が生まれた。「これだけは伝えたい。」というめあてに向かう、本質的な発問や教材を精選することの大切さを学んだ。

「指導案」や「発問」のあり方について改めて考える機会を与えてもらえたと思う。また、英語力に課題があるからこそ、それ以外を使って相手を理解しようとする気持ちが芽生えた。小さなことでも、心が通じたと分かった時の喜びはかけがえのないものになった。

#### 4.3 グローバルマインドに関する変容

「外国語活動」の導入に伴い、「国際理解教育」がますます注目されるようになっている。では、外国の知識を多く持ち、英語を話せる日本人を育てることで「国際理解」ができるのだろうか。そういう面も確かに必要である。しかし、今回私はアメリカに行ったことにより、別のことを考えるようになった。今回の授業を行うにあたって、日本の小学校の児童に授業をした時、日本の小学生が、自分の地域の文化や日本の切手についてあまりよくわかっていないことに気づいた。外国の文化を学ぶことは自国の文化を学ぶことでもある。それは児童のみならず、私自身にも言えることであった。アメリカでいろいろなものを実際に見聞きし肌で触れ、感じたことを日本と比較してみることで、逆に日本の良さや問題点にも改めて気づくことができた。

また、今回渡米の際、私は「原爆」「戦争」についての資料や考え方に触れてくることをもう一つの目的としていた。ローリーの歴史博物館、町に立っている記念碑や、ワシントン、スミソニアン第二次世界大戦記念碑、国立航空宇宙博物館などに展示されているものなど、限られたものから推察しても、日本人とアメリカ人の「原爆」「戦争」についての意識の違いは大きいものがあると感じた。お互いの文化を理解することはとても難しい。しかし、たとえば「あいさつ」「給食」などのお互いの身近なものを深く見つめていくことや、多くの情報に振り回されることなく、正しい情報をきちんと理解していく力をつけることが「国際理解」の第一歩ではないかと感じた。

#### 5 おわりに

今回の授業実践を持ち帰り、波多見小学校で5年生にもう一度授業をした。テーマは、「アメリカの学校で大切にされていることはなんだろう。」授業の前に、私に「日本よりアメリカの学校のほうがいい。」と言いに来た児童がいた。彼が授業が終わるときに、「そうか、アメリカもいいけど日本もいいなあ。」と言っていた。

ウオールコート小学校の5年担任のマックスウェル先生と波多見小学校の5年担任の小林千春先生のご厚意で、波多見小学校の児童とウオールコート小学校の児童がペアを組み、2度目の手紙を今、アメリカに届けたところである。子供たちはアメリカの友達に思いをはせながらいろいろなことを担任の先生に提案しているようだ。

今回の研修を計画実施してくださったGPSC関係者の皆様、日本での授業に協力してくださった波多見小学校の職員の皆様、ノースカロライナ州で研修を受け入れてくださった関係者の皆様、ウオールコート小学校の職員のみなさま、児童の皆様、アメリカ切手についていろいろな情報を教えてくださった平尾晃様、(株)日本郵趣エージェンシー海外業務部 榎本 隆平様に心から感謝申し上げたい。(私事ながら10日間も家を留守にすることを許してくれた家族にも謝意を示したい。) GPSCの今後のさらなる発展をお祈りいたします。ありがとうございました。